

Cisco Telemetry Broker

2.1.3 リリース ノート



目次

はじめに	3
Cisco Telemetry Broker 展開のアップグレード	3
更新ファイルのダウンロード	3
更新ファイルのアップロード	4
新機能	5
バージョン 2.1.3	5
バージョン 2.0.1	5
バージョン 1.4.4	5
バージョン 1.3.2	6
バージョン 1.3.1	6
バージョン 1.2.2	7
バージョン 1.1.2	8
修正点	9
バージョン 2.1.3	9
バージョン 2.0.1	9
バージョン 1.4.4	9
バージョン 1.3.2	9
バージョン 1.3.1	10
バージョン 1.2.2	10
バージョン 1.1.3	10
バージョン 1.1.2	10
バージョン 1.0.3	10
バージョン 1.0.2	11
既知の問題	12
バージョン 2.1.3	12
バージョン 2.0.1	16
バージョン 1.4.4	16
バージョン 1.3.2	17
サポートに連絡	18
変更履歴	19
リリースサポート情報	20

はじめに

Cisco Telemetry Broker v2.1.3 は、新機能とバグ修正の両方を含む機能リリースです。

Cisco Telemetry Broker 展開のアップグレード

Cisco Telemetry Broker マネージャの Web インターフェイスの [ソフトウェアアップデート (Software Update)] ページには、マネージャノードとブローカーノードの現在の Cisco Telemetry Broker バージョンが表示され、最新のリリースバージョンにアップグレードできます。

この更新により、マネージャとすべての管理対象ブローカーノードが最新バージョンにアップグレードされます。更新を実行する前に、Cisco Telemetry Broker VM の VM スナップショットを作成することをお勧めします。このスナップショットを使用して、予期しないエラーが発生した場合に現在の状態に戻すことができます。

更新中にシステムが応答しなくなり、最初にマネージャが更新され、次にブローカーノードが更新されます。マネージャの更新中は、Cisco Telemetry Broker の展開の状態が正しく表示されない場合があります。ブローカーノードの更新中は、送信されたトラフィックを宛先に正しく渡すことができません。



- 既存の展開を v2.1.3 にアップグレードするには、マネージャノードにデータ移行を実行するのに十分な空き領域 (最大で現在使用しているディスク容量の 45%) がある必要があります。たとえば、マネージャの /var/lib/titan/ パーティションが 60 GB を使用している場合、最大 27 GB の空きディスク容量 (または合計 87 GB 以上のディスクサイズ) が必要です。
- システムの既存のデータサイズによっては、アップグレードプロセスに時間がかかる場合があります (マネージャノードでデータベースの移行が完了するまでに 2 ~ 3 時間かかる場合があります)。


更新ファイルのダウンロード

1. [Cisco Software Central](#) に移動します。
2. [ダウンロードとアップグレード (Download and Upgrade)] セクションで、[ダウンロードにアクセス (Access Download)] を選択します。
3. 検索フィールドに「Cisco Telemetry Broker」と入力します。
4. [マネージャノード ソフトウェア (Manager Node Software)] を選択します。
5. CTB 更新バンドルファイル `ctb-update-bundle-v2.1.3-0-g0116daa.prod.secured.tar` をダウンロードします。



v2.1.3 バンドルファイルは、Cisco Telemetry Broker v1.2.2 以降にインストールできます。

更新ファイルのアップロード


1. Cisco Telemetry Broker マネージャで、 (設定) アイコンをクリックします。
[アプリケーション設定 (Application Settings)] ページが開きます。
2. [ソフトウェアの更新 (Software Update)] タブをクリックします。
3. ページの右上隅にある [更新ファイルのアップロード (Upload an Update File)] をクリックします。
4. ダウンロードしたファイルを選択します。
表示される推定時間に基づき、アップロードが完了するまで数分かかる場合があります。ファイルがアップロードされると、ソフトウェアアップデートが利用可能になったことを通知するメッセージが表示されます。
5. [Cisco Telemetry Broker の更新 (Update Cisco Telemetry Broker)] をクリックします。
マネージャノードが最新バージョンに更新されている間は、Cisco Telemetry Broker 内を移動できません。更新プロセスには約 10 分かかります。
6. 更新が完了すると、再度 Cisco Telemetry Broker にログインするように求められます。
更新中の各ブローカーノードの横にロードインジケータが表示されます。

新機能

バージョン 2.1.3

- 未加工のトラフィックから NetFlow テレメトリを生成し、Cisco Secure Cloud Analytics や Cisco Secure Network Analytics を含む任意の宛先と共有できるようになりました。
- ディスク容量を使い果たしてしまうお客様が多いため、より効率的にデータベースを使用することでディスク使用量を削減しています。
- 今後はより多様な設定ができるように入力タイプの処理方法を一般化したため、新しいさまざまな入力タイプを簡単に追加できるようになります。

バージョン 2.0.1

- M6 ハードウェアで実行される物理ブローカノード (TB2300-K9) を Cisco Telemetry Broker で使用できるようになりました。詳細については、『[Broker Node TB2300 Specification Sheet](#)』 [英語] を参照してください。
- ブローカノードにログインせずに MTU を設定できるようになりました。[ブローカノード (Broker Nodes)] ページの [ブローカノード (Broker Nodes)] テーブルにある [ブローカノード名 (Broker Node Name)] 列で、該当するブローカノード名をクリックします。[テレメトリ インターフェイス (Telemetry Interface)] セクションで、 (編集) アイコン をクリックし、[インターフェイス MTU (バイト) (Interface MTU (bytes))] フィールドに値を入力します。

バージョン 1.4.4

- **IPv6 の管理者層のサポート**: Cisco Telemetry Broker 管理/管理インターフェースを、IPv6 アドレスを使用して設定できるようになりました。次のエンティティとの通信を IPv6 経由で実行できます。
 - Syslog サーバ
 - 電子メール サーバ
 - プロキシ サーバが使用されている環境
 - SCA サーバー
 - VPC s3 バケット
 - NSG SAS バケット
- **新しいアラート**
 - **不十分な CPU 割り当て (Insufficient CPU Allocated) アラート**: このアラートは、推奨される数の CPU がノードに割り当てられていないことを示します。
 - **不十分なメモリ割り当て (Insufficient Memory Allocated) アラート**: このアラートは、推奨される量のメモリがアプライアンスに割り当てられていないことを示します。

Cisco Telemetry Broker アラートのリストについては、『Cisco Telemetry Broker User Guide』の「Appendix C」を参照してください。

- **アダプティブモードでのブローカー機能**: Cisco Telemetry Broker では、アダプティブモードでブローカー機能を提供するようになりました (カーネル 5.x と vfio-pci カーネルモジュールが必要)。アダプティブモードを有効にすると、トラフィック量が少ない (500K pps 未満) と予想され

る場合は CPU 使用率が低下します。ただし、トラフィック量が多い(500K pps を超える)、またはバースト性があると予想される場合は、適応モードを有効にしないことをお勧めします。

詳細については、『Cisco Telemetry Broker User Guide』ユーザーガイドの「Appendix B」を参照してください。

- **[データフロー(Data Flow)] ページ**: [データフロー(Data Flow)] ページが追加され、どの入力かどの送信先に接続されているか簡単に確認できるようになりました。このページでは、設定した入力と送信先に関連するアラート、データフロー情報、およびその他の詳細も確認できます。

詳細については、『Cisco Telemetry Broker User Guide』の「Data Flow」セクションを参照してください。

- **カーネル 5.x および Debian 11 へのアップグレード**: Cisco Telemetry Broker により、カーネル 5.x および Debian 11 にアップグレードされてアダプティブモードを使用できるようになり、最新のアップストリームセキュリティ修正が含まれます。
- **設定可能なシステムパラメータ**: 個々のシステムパラメータ(ホスト名を含む)を `sudo ctb-install --config` コマンドを使用して設定できるようになりました。

詳細については、『Cisco Telemetry Broker Virtual Appliance Deployment and Configuration Guide』の「VMWare Setup」セクションを参照してください。

バージョン 1.3.2

- **[概要(Overview)] ページ**: メトリクスコンポーネントを簡素化しました。現在このページに表示されるのは、[合計受信レート(Total Received Rate)] と [合計送信レート(Total Sent Rate)] (過去 24 時間)のみです。
- **ルールでのサブネットの分離**: ルールを作成または編集するときに新しい行を使用してサブネットのリストを分離できるようになりました。
- **パフォーマンスの強化**: [概要(Overview)] ページと [宛先(Destination)] ページのパフォーマンスが強化されました。
- **TLS 証明書の有効期限**: TLS 証明書の有効期限が切れる前の 30 日間、毎日警告を受け取ります。

バージョン 1.3.1

- **入力の概念**: v1.3.1 では入力の概念が導入されました。v1.2.x 以前では、エクスポート/送信元は、ルールで指定されたポートにデータを送信します。Cisco Telemetry Broker は、その後、すべてのエクスポートのメトリックを追跡します。

v1.3.x では、Cisco Telemetry Broker によって入力の概念が導入されます。入力のタイプは、UDP、VPC(AWS フローログ)、NSG(Azure フローログ)の 3 つです。UDP 入力は、ポート番号と名前で作成されます。各入力は、複数のエクスポートからテレメトリを受け取ります。エクスポートの追跡を無効にすると、入力レベルでメトリックを追跡できます。これにより、エクスポート(IP アドレスなど)は追跡されなくなります。エクスポートごとのメトリックを追跡するには、エクスポートの追跡を有効にする必要があります。

詳細については、Cisco Telemetry Broker のユーザーガイドにある「入力」の章を参照してください。

- **最大 100,000 のエクスポートのサポート**: Cisco Telemetry Broker ブローカーノードごとに最大 100,000 のエクスポートがサポートされます (エクスポートの追跡を有効にしていない場合)。エクスポートの追跡を有効にすると、Cisco Telemetry Broker は引き続き最大 1000 の輸出業者をサポートします。
- **接続先のない入力**: 新しく作成された入力は、ルールによって接続先に関連付けられなくても、データの受信を開始できます。これにより、データが接続先に転送される前に設定をデバッグすることが可能になります。
- **ノードごとの独立ルール**: 特定のノードまたはクラスタに入力を割り当てることができます。これにより、ノードまたはクラスタごとに異なるルールを作成することができます。
- **UDP 入力でのポート番号の再利用**: 入力と同じノードまたはクラスタに割り当てられていないかぎり、複数の入力に同じポート番号を指定することができます。
- **SCA 接続先**: Cisco Telemetry Broker は、NetFlowV9 データおよび NetFlowV5 データを変換して Secure Cloud Analytics に送信します。v1.2.x では、IPFIX データのみが Secure Cloud Analytics に送信されます。

バージョン 1.2.2



v1.1.x 以前から v1.2.2 にアップグレードする場合、データの移行が必要になるため、プロセスには最大 1 時間かかる場合があります。正確な時間は、マネージャのディスク速度とデータベースのサイズによって異なります。この間、マネージャ UI が応答しない場合があります。

- **[概要 (Overview)] ページ**: Cisco Telemetry Broker にシステムの正常性とシステムを通じて送信されるテレメトリの概要が表示される新しいホームページが追加されました。
- **電子メール通知**: 次のアラートのいずれかが生成されたときに、電子メール通知を送信するように Cisco Telemetry Broker に指示できます。
 - ブローカーノードデータなし (Broker Node No Data)
 - ブローカーノードのパケットドロップ (Broker Node Dropping Packets)
 - 宛先到達不能
 - アプライアンスのディスクが満杯




現在、カスタムアラートタイプは設定できません。

- **SCA 宛先**: Secure Cloud Analytics (SCA) 宛先を追加できます。
 - Cisco Telemetry Broker では、システムごとに 1 つの SCA 宛先のみを追加できます。
 - Cisco Telemetry Broker は IPFIX パケットのみを Secure Cloud Analytics に送信します。
 - Cisco Telemetry Broker デプロイメントにトラフィックが少ない場合、SCA 宛先を追加した後、データが [宛先 (Destinations)] ページに表示されるまでに最大 20 分かかります。
- **宛先ルール**: SCA 宛先のルールを追加するときに、IPv6 サブネットを追加することはできません。

- **ブローカノードの展開**: Transformation Capable パフォーマンスプロファイルを使用してブローカノードを展開し、テレメトリ変換を実現できます (たとえば、IPFIX データを Secure Cloud Analytics に送信します)。
 - これには 8 個の CPU と 12G のメモリが必要です。詳細については、『[Cisco Telemetry Broker Virtual Appliance Deployment and Configuration Guide](#)』の「Virtual Machine Requirements」セクションを参照してください。
 - Cisco Telemetry Broker ノードのディスクサイズが 40G から 70G に増加しました。したがって、SCA にデータを送信する場合は、v1.2.2 にアップグレードした後に VM をアップグレードして、追加の 30G のディスク容量を確保してください。手順については、『[Cisco Telemetry Broker User Guide](#)』の「Expand Cisco Telemetry Broker Manager Disk Size」セクションの手順 3 を参照してください。

バージョン 1.1.2

- **Azure NSG フローログから IPFIX への変換**: Azure NSG フローログを IPFIX に変換し、この情報を Cisco Telemetry Broker に送信できます。
- **KVM の展開**: Cisco Telemetry Broker のイメージは、KVM ハイパーバイザに展開するための qcow2 イメージファイルとして配布されます。
- **スマートライセンス機能**: オンプレミスの Smart Software Manager を使用して、スマートライセンス登録の更新、承認の更新、強制再登録、およびトランスポートゲートウェイ接続のサポートが追加されました。

 Cisco Telemetry Broker には Smart Software Manager バージョン 8-202010 以降が必要です。

- **Syslog 通知**: Cisco Telemetry Broker では、システム内で発生しているアラートに関する通知がお客様の syslog サーバーに送信されます。以前は、ノードがパケットをドロップする、データを送信しない、宛先が到達不能であるなどを示すアラートがサポートされていました。
- **テレメトリの分類**: 着信 UDP テレメトリを Cisco Telemetry Broker 内で事前定義されたタイプ (NetFlow V9、IPFIX、Syslog など) に基づいて分類し、ユーザーインターフェイス (UI) に分類を表示できます。

修正点

バージョン 2.1.3

CDETS ID	説明
CSCwe97770	設定された Syslog サーバに証明書の有効期限アラートが送信されない問題を修正しました。

バージョン 2.0.1

CDETS ID	説明
関連付けられた ID なし	宛先が追加されると [宛先 (Destinations)] ページで応答時間に遅延が発生する可能性がある問題を修正しました。

バージョン 1.4.4

CDETS ID	説明
CSCwc86227	[入力の詳細 (Input Details)] ページの [受信レート (Received Rate)] のグラフと [送信先の詳細 (Destination Details)] ページの [送信率 (Sent Rate)] のグラフの両方で、ビューを長い時間枠から短い時間枠に変更すると (たとえば、4 時間から 1 時間に切り替える)、新しく選択した時間枠の適切な集計間隔に切り替わるようになりました。
CSCwc79707	読み込みの省略記号は、[NSGフローログの追加 (Add NSG Flow Log)] ダイアログと [VPCフローログの追加 (Add VPC Flow Log)] ダイアログの両方に表示されなくなりました。

バージョン 1.3.2

CDETS ID	説明
関連付けられた ID なし	Cisco Telemetry Broker 50,000 バイトを超える NSG フローログを処理できるようになりました。
関連付けられた ID なし	スマートアカウントの正しいラベルが、[スマートライセンス (Smart Licensing)] ページに正しく表示されるようになりました。
関連付けられた ID なし	Cisco Telemetry Broker vflow スコープフィールドを正しく処理するようになりました。
CSCwc58607	[概要 (Overview)] ページの [合計送信レート (Total Sent Rate)] のメトリックには、各宛先の送信レートメトリック ([宛先 (Destination)] の各ページに表示されるメトリック) の合計が表示されます。

バージョン 1.3.1

このリリースの修正はありません。

バージョン 1.2.2

CDETS ID	説明
CSCwa10327	マネージャの TLS 証明書を、3 証明書を超える CA 階層を含む PEM チェーン証明書に置き換えると、ノードとの接続が切断される問題を修正しました。Cisco Telemetry Broker は 3 証明書を超える Cisco Telemetry Broker 階層で動作するようになりました。
CSCvz89441	ブローカのインストール中に Cisco UDPD xml 設定をインポートすると失敗し、サーバーが 415 Unsupported Media Type エラー応答コードを受け取る問題を修正しました。

バージョン 1.1.3

CDETS ID	説明
CSCvz01135	一度に大量のログを書き込むと Cisco Telemetry Broker によってディスクがいっぱいになることがあるという、まれな問題を修正しました。必要に応じて、ディスクのログが循環停止されるようになりました。
CSCvz46626	選択した時間範囲が 4 時間を超えていると、Cisco Telemetry Broker でグラフのデータレートが正しく表示されない問題を修正しました。
関連付けられた ID なし	Azure フローログが存在する場合に、Cisco Telemetry Broker の構成のバックアップが失敗する問題を修正しました。
関連付けられた ID なし	[S3バケットパス(S3 Bucket Path)] フィールドに大文字を入力すると、Cisco Telemetry Broker で VPC フローログを作成できない問題を修正しました。
関連付けられた ID なし	Azure フローログの送信元が正常な場合でも、Cisco Telemetry Broker で誤って「初出(Never Seen)」ステータスが表示される問題を修正しました。

バージョン 1.1.2

このリリースの修正はありません。

バージョン 1.0.3

CDETS ID	説明
CSCvy44789	v5 AWS VPC フローログフィールドで Cisco Telemetry Broker が失敗する問題を修正しました。Cisco Telemetry Broker がサポートされていないフィールドを無視するようになり、失敗しなくなりました。

バージョン 1.0.2

CDETS ID	説明
関連付けられた ID なし	メトリックのデータ保持ジョブがすべてのデータをクリーンアップしないため、マネージャのディスクがいっぱいになる問題を修正しました。
関連付けられた ID なし	信頼できないファイルが処理されないようにするため、Cisco Telemetry Broker アップグレードプロセスに特別な検証が追加されました。
関連付けられた ID なし	デバッグに役立つ診断レポートが Cisco Telemetry Broker メーデーパックに追加されました。
関連付けられた ID なし	パッチが適用されたサードパーティライブラリがセキュリティ修正に導入されました。

既知の問題

このセクションでは、Cisco Telemetry Broker に存在する既知の問題(バグ)の概要が表示されます。可能な場合には、回避策も示しています。

バージョン 2.1.3

CDETS ID	説明と回避策
関連付けられた ID なし	<p>説明</p> <p>既存の展開を v2.1.3 にアップグレードするには、マネージャノードにデータ移行を実行するのに十分な空き領域(最大で現在使用しているディスク容量の 45%)がある必要があります。たとえば、マネージャの /var/lib/titan/ パーティションが 60 GB を使用している場合、最大 27 GB の空きディスク容量(または合計 87 GB 以上のディスクサイズ)が必要です。このデータ移行には時間がかかり、長時間の展開では 2 ~ 3 時間かかる場合もあることにも注意してください。</p> <p>回避策</p> <p>アップグレードする前に、十分な空きディスク容量があることを確認してください。</p>
関連付けられた ID なし	<p>説明</p> <p>2.1.3 更新バンドルを既存の CTB 展開にアップロードすると、問題が発生して次のエラーが引き起こされる可能性があります。</p> <p>サーバが更新ファイルを拒否しました:<html><head><title> 504 ゲートウェイタイムアウト </title></head><body><center><h1>504 ゲートウェイタイムアウト</h1></center><hr>nginx</center></body></html></p> <p>回避策</p> <p>マネージャノードを再起動し、更新バンドルのアップロードを再試行します。</p>
関連付けられた ID なし	<p>説明</p> <p>テレメトリ ネットワーク インターフェイスをすでに適応モードにしている場合は、VMWare または KVM のどちらかでセットアップしているかに関係なく、v2.1.3 にアップグレードする前に次の手順を完了する必要があります。</p> <p>回避策</p> <p>ブローカノードシェルにログインし、次のコマンドを追加します。</p> <pre>set interface rx-mode eth1 adaptive</pre> <p>次のファイルに追加します。</p> <pre>/var/lib/titan/vppconfig/vpp_custom_cmds.txt</pre>

CDETS ID	説明と回避策
関連付けられた ID なし	<p>説明</p> <p>マネージャ証明書の共通名 (CN) は、(ctb-manage を介して) すべてのブローカノードを登録するために使用されたアドレス (IP または DNS) と一致する必要があります。</p> <p>回避策</p> <p>なし</p>
関連付けられた ID なし	<p>説明</p> <p>Cisco Telemetry Broker v1.4.4 または v2.0.1 を IPv6 のみの展開としてすでに設定している場合 (つまり、ctb-install --init が実行されたときにマネージャノードの管理インターフェイスに IPv4 アドレスではなく IPv6 アドレスが提供された場合)、v2.1.3 以降にアップグレードする前に新しい TLS 証明書を生成する必要があります。具体的には、[設定 (Settings)] > [TLS 証明書 (TLS Certificate)] > [証明書の詳細 (Certificate details)] の [サブジェクト名 (Subject Name)] または [問題名 (Issue Name)] に角カッコで囲まれた IPv6 アドレスが含まれている場合 ([2001:420:3044:2013:0:9:0:18] など)、角カッコなしで新しい証明書を作成する必要があります。</p> <p>回避策</p> <ol style="list-style-type: none"> 新しい証明書を作成します。<ipv6 address> を、括弧なしでマネージャノードの管理インターフェイスに置き換えてください。(行 2 と行 3 の先頭にスペースがあることに注意してください)。 <pre data-bbox="477 1150 1414 1306">openssl req -x509 -newkey rsa:4096 -nodes -keyout key.pem -out cert.pem -sha256 -days 365 -subj /CN=<ipv6 address> -addext 'subjectAltName=IP:<ipv6 address>'</pre> <ol style="list-style-type: none"> マネージャに証明書をアップロードします ([設定 (Settings)] > [TLS 証明書 (TLS Certificate)] > [TLS 証明書のアップロード (Upload TLS Certificate)])。 sudo ctb-manage を実行し、オプション c (マネージャの証明書は再取得するが、他のすべての情報は保持する) を選択します。

CDETS ID	説明と回避策
関連付けられた ID なし	<p>説明</p> <p>IPv6 を使用するノードを v2.1.3 にアップグレードする前に、まず <code>DNS:<Manager IPv6 address></code> の形式の SAN エントリを含めるようにマネージャの証明書を変更する必要があります、これを行わないとブローカはマネージャと通信できなくなります。</p> <p>回避策</p> <p><code>openssl</code> を使用して証明書を生成する場合は、次のオプションを使用します。</p> <pre>-addext 'subjectAltName=IP:<Manager IPv4 address>, IP:<Manager IPv6 address>, DNS:<Manager IPv6 Address></pre>
関連付けられた ID なし	<p>説明</p> <p>フロッジェネレータ入力を機能させるには、v2.1.3 以降のマネージャと v2.1.3 以降のブローカを使用する必要があります。</p> <p>回避策</p> <p>なし。</p>
関連付けられた ID なし	<p>説明</p> <p>ブローカノードが v2.1.3 へのアップグレードを完了させる場合もありますが（これはノードへの ssh アクセスで確認できます：<code>cat /etc/titanos_version</code>）、マネージャの [設定 (Settings)] > [ソフトウェアアップデート (Software Update)] ページには引き続き「更新中…」と表示されます。</p> <p>回避策</p> <p>ブローカノードで <code>sudo /opt/titan/bin/upload.sh</code> を実行します。</p>
関連付けられた ID なし	<p>説明</p> <p>vSphere ユーザーには、OVA の展開後に「システムを操作しているゲストは ... サポートされていません」というエラーが表示されることがあります。</p> <p>回避策</p> <p>https://kb.vmware.com/s/article/87660 にある回避策の手順に従ってください。</p>

CDETS ID	説明と回避策
関連付けられた ID なし	<p>説明</p> <p>AWS フローログと NSG フローログに大量のフローログが含まれている場合、テレメトリの損失が観察される可能性があります。</p> <p>回避策</p> <p>バケットを分割し、ブローカをクラウドテレメトリ転送専用にします。</p>
関連付けられた ID なし	<p>説明</p> <p>フロージェネレータ入力を使用する場合、ブローカノードのモニターインターフェイスに接続された SPAN ポートのオーバーサブスクリプションにより、パケット損失が発生する可能性があります。これらのモニターインターフェイス統計はブローカノードによって収集され、ブローカノードのコマンドラインを介して使用できます。ただし、マネージャには報告されません。</p> <p>回避策</p> <p>次のコマンドを実行し、コマンドラインを介してモニターインターフェイス統計を確認します。</p> <pre>sudo docker exec -it vpp-fs vppctl show interface eth1</pre> <p>モニターインターフェイスに <code>rx-miss</code> がないことを確認します。パケット損失がある場合は、SPAN ポートのオーバーサブスクリプションを解決します。</p>
関連付けられた ID なし	<p>説明</p> <p>v2.1.3 へのアップグレード後に、マネージャノードまたはブローカノードの詳細ページの CPU、メモリ、およびディスクストレージの統計が更新されない場合があります。これは、長時間のデータベース移行を伴うアップグレードで発生する可能性があります。</p> <p>回避策</p> <p>アップグレードが完了してから 20 分経っても統計が更新されない場合は、マネージャノードまたはブローカノード(影響を受けている方)に ssh 接続し、<code>sudo docker restart telegraf-collector</code> を実行します。</p>

バージョン 2.0.1

CDETS ID	説明と回避策
関連付けられた ID なし	<p>説明</p> <p>場合によっては、Cisco Telemetry Broker インターフェイスで、テレメトリインターフェイスのキャパシティが誤って 0 bps と表示されることがあります。とはいえ、ブローカノード TB2300 のテレメトリインターフェイスの容量は実際には 10Gbps であることに注意してください。</p> <p>仮想ブローカノードについては、インターフェイス容量のハイパーバイザ設定 (VMware や KVM など) を参照してください。</p> <p>回避策</p> <p>現時点ではありません。</p>
CSCwe97770	<p>説明</p> <p>マネージャノードの TLS 証明書が期限切れになった場合、または 30 日以内に期限切れになる場合、Cisco Telemetry Broker は通知を送信します。この通知は、[概要 (Overview)] ページにアラートとして表示されます。</p> <p>v2.0.1 の場合、これらのアラートは Syslog 経由で送信されませんが、アラートは [概要 (Overview)] ページに表示されます。</p> <p>回避策</p> <p>これらの通知を電子メールで送信するように Cisco Telemetry Broker を設定できます。そのように設定しなかったとしても、アラートは [概要 (Overview)] ページに表示されます。</p>

バージョン 1.4.4

CDETS ID	説明と回避策
CSCwd87094	<p>説明</p> <p>Cisco Telemetry Broker SCA 宛先に送信されている 1500 を超える NetFlow および IPFIX パケットをドロップします。</p> <p>回避策</p> <p>現時点ではありません。</p>

バージョン 1.3.2

CDETS ID	説明と回避策
CSCwc79707	<p>説明</p> <p>読み込みの省略記号(水平の3点リーダー)は、[NSGフローログの追加 (Add NSG Flow Log)] ダイアログと [VPCフローログの追加 (Add VPC Flow Log)] ダイアログの両方に表示されます。これにより、フローログを追加する機能が妨げられることはありません。</p> <p>回避策</p> <p>現時点ではありません。</p>
CSCwc86227	<p>説明</p> <p>[入力の詳細 (Input Details)] ページの [受信レート (Received Rate)] のグラフと [送信先の詳細 (Destination Details)] ページの [送信率 (Sent Rate)] のグラフの両方で、ビューを長い時間枠から短い時間枠に変更すると(たとえば、4時間から1時間に切り替える)、以前に選択した時間枠の集計間隔は保持されます。新しく選択した時間枠の適切な集計間隔には切り替わりません。</p> <p>これにより、グラフが正しく表示されなくなり、十分に拡大すると線が点線として表示される場合があります。</p> <p>回避策</p> <p>現時点ではありません。</p>

サポートに連絡

テクニカルサポートが必要な場合は、次のいずれかを実行してください。

- 最寄りの Cisco Telemetry Broker パートナーにご連絡ください。
- Cisco Telemetry Broker サポートにご連絡ください。
- Web でケースを開く場合：<http://www.cisco.com/c/en/us/support/index.html>
- 電子メールでケースを開く場合：tac@cisco.com
- 電話でサポートを受ける場合：800-553-2447 (米国)
- ワールドワイド サポート番号：
<https://www.cisco.com/c/en/us/support/web/tsd-cisco-worldwide-contacts.html>

変更履歴

マニュアルのバージョン	公開日	説明
1_0	2024 年 3 月 14 日	最初のバージョン
1_1	2024 年 3 月 15 日	「既知の問題」セクションを更新しました。
1_2	2024 年 3 月 22 日	「既知の問題」セクションを更新しました。
1_3	2024 年 3 月 25 日	「リリースサポート情報」セクションに GA の日付を記載しました。

リリースサポート情報

リリース 2.1.3 の公式一般公開 (GA) 日は 2024 年 3 月 25 日です。

一般的なソフトウェアのメンテナンスサポート、パッチ、一般的なメンテナンスリリースに関するサポートタイムライン情報、もしくは Cisco Telemetry Broker リリース サポート ライフサイクルに関するその他の情報については、『[Cisco Telemetry Broker Software Lifecycle Support Statement](#)』を参照してください。

著作権情報

Cisco および Cisco ロゴは、シスコまたはその関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。シスコの商標の一覧については、URL: <https://www.cisco.com/go/trademarks> をご覧ください。記載されている第三者機関の商標は、それぞれの所有者に帰属します。「パートナー」という用語の使用はシスコと他社との間のパートナーシップ関係を意味するものではありません。(1721R)